

○井神議長 通告6番目、10番、田畑昭二議員、総括方式で質問をお願いします。

田畑昭二議員。

○田畑議員 10番、田畑昭二です。議長の許可を得ましたので、さきの通告に従いまして、総括方式で3点質問をいたします。

まず1点目は、認知症対策についてであります。

世界最速で高齢化が進む我が国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症高齢者数は700万人に達すると推計されております。日本の認知症への取り組みが注目されております。今後の認知症高齢者の増加等を考えれば、認知症への理解の一層の促進、当事者や家族の生活を支える体制の整備、予防、治療法など、総合的な取り組みが求められるところであります。

先月、11月10日、岩出公民館におきまして、認知症サポート養成講座が、参加人数34名で開催され、私も参加をさせていただきました。内容は非常にわかりやすく、具体的な事例を用い、また映像による講義で、認知症の基礎的な知識を得ることができました。このような講演を地域包括支援センターの方々のご尽力により、企業等にも行かれ、さまざまに展開されているところであります。

そこで、特に認知症にとって大事なことは、早期発見、早期治療であるとのことでありました。そこで、このたび私が提案するのは、現在、日本全国の各自治体が行い、取り組みつつある認知症簡易チェッカーの導入であります。この簡易チェッカーは、認知症のごく初期、認知症の始まり、あるいは認知症に進展する可能性のある状態を本人などが簡単に予測できるよう考案されたものであります。

このテストの内容は、若い世代にも知識として持つておくべきもので、そうすれば世代間の摩擦は避けられ、家族間の思いやりもなされていく大切な知識となります。この制度の使い方は、どなたでも市等の公共のホームページから入るか、また、スマートフォンからも簡単にアクセスできるようになっており、身近に活用できるものであります。導入費用も安価で、ぜひとも早期の導入を提案いたします。

次に、当市の認知症サポーター及びサポーターリーダーは、現在、何名おられるのか。また、今後の活動はどのように考えられているか、お答えいただきたいと思っております。

次に、小中学生への認知症への教育についてであります。小中学校においても、認知症サポーター小中学生養成講座を開催してはどうでしょうか。認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援することを学ぶことは大切であると思っております。ぜひ前向きに検討をしていただきたいと思っております。

次に、2点目は、健康寿命の長い高齢者に表彰を考えてはどうかについてであります。

健康寿命のはかり方は、介護保険を使わず、自力で頑張っている方の年齢であり、恐らくそのような方々は、食事、運動、趣味、ボランティアなど、さまざまな分野で努力されている観点から、市としても、このような元気な高齢者を見習っていかうという観点で、表彰を差し上げてはどうかと提案いたします。

最後に、3点目に、当市の国際化を目指し、姉妹都市の提携をについてであります。

当市も、明年で市制施行満10年を迎えます。市長は、常々言われておられます市にふさわしいまちづくりの一旦として、岩出根来インターチェンジの完成とともに、阪和高速との連結も間近であります。今後、和歌山県の中でも、大阪への玄関口として最も重要な位置に存し、今後が大いに期待されるところであります。観光事業にも重要施策の1つとして取り組まれ、今後ますます海外からのお客様も大いに見込まれるところであります。

そこで、岩出市の若い方々も、ふるさと岩出を誇れるような国際都市へと発展していかなければなりません。そこで、従来の市長や議員などの行政交流だけではなく、経済、スポーツ、教育、文化等の国際交流の推進を図ることから、姉妹都市の提携を提案いたします。

次に、当市の職員で英語など外国語が話せる職員は何名いらっしゃるのでしょうか。また、今後のお考えはどのように考えておられるのか、お答え願います。

以上、3点の質問を終わります。

○井神議長 ただいまの質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 田畑議員ご質問の1番、認知症対策についての1点目の早期発見、相談支援体制充実のための認知症簡易チェッカーの導入の考えはについて、お答えします。

認知症という病名や病状に関する認知度に高まる中、住民の認知症に対する不安は、高齢化の進行と相まって、大きくなっていくものと思われれます。そのため、認知症の予防や早期発見、対応するための相談支援体制等、認知症施策の充実は非常に重要であると認識しております。

議員ご提言の認知症簡易チェッカーは、パソコンや携帯電話、スマートフォンで、高齢者本人や家族等が簡単に認知症のチェックができるなど、認知症の早期発見に

有効であるとされていることから、導入している自治体があることは把握してございます。

本市では、今年度において、認知症の人や家族を支援するためのさまざまな情報をまとめた認知症ケアパスを作成することとしており、具体的には、認知症の人の状態に応じて、いつ、どこで、どのような医療や介護サービスが受けられるかなど、市内の社会資源をまとめたものに加えて、認知症予防のための会のチェックリストなども掲載する予定であり、作成後は、このチェックリストを活用していただき、認知症の早期発見につなげていただけるよう、広く周知してまいりたいと考えておりますので、現在のところ、認知症簡易チェッカーを導入する予定はございません。

なお、今後、認知症施策を推進していく上で、実効ある施策については前向きに取り組んでまいりたいと考えてございますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

次に、2点目の当市の認知症サポーター及びサポーターリーダー、これはキャラバンメイトのことですが、は何か、また、今後の活動はについてお答えいたします。

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する本市の認知症サポーターは、平成27年11月末現在、697人です。また、認知症サポーター養成講座の講師役になることができるキャラバンメイトは、平成27年11月末現在、20名でございます。

認知症サポーター養成講座は、毎年度5回程度の実施計画を立て、広報等で募集したり、一般の方や介護教室の修了者に講座を実施しております。また、それ以外に市内の事業所等からの依頼により、随時開催しております。市といたしましては、地域全体で認知症に対する理解を進めていくことが必要であることから、今後も計画的に認知症サポーター養成講座を実施してまいります。

また、養成した697人の認知症サポーターにつきましては、1回の研修では認知症の方への対応の仕方がわからない、認知症を温かく見守るといっても、どうしたらいいのかわからないという声もあることから、今後、フォローアップ事業等を実施していくなど、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

続きまして、2番目の健康で介護保険を利用していない高齢者の方を対象とした健康優良者等の名目での表彰についてでございますが、介護保険サービスを利用できる65歳以上の第1号被保険者は、本年9月末現在、1万819人で、そのうち82.6%

に当たる8,934人が要介護認定を受けていない方です。

健康な高齢者を表彰することは、健康を維持し、いつまでも元気で健やかに過ごすために、介護予防活動をされている方への励みとなり、健康長寿を続けられることにより、経済的な負担軽減にもつながる施策であると考えます。

しかしながら、実際のところ、介護サービスを利用していない方が大半であり、その中から表彰する対象者を選考することになりますと、その趣旨に沿っているかの審査等、公平・公正な選考を担保することは困難であることが考えられます。

市といたしましては、現在のところ、こうした表彰制度を創設する予定はございませんが、今後ますます高齢化が加速化し、介護保険制度の役割が増大していく中、健康長寿の実現につなげられるような取り組みについて、広く情報収集に努めるとともに、住みなれた地域で生き生きとした生活を過ごせるよう、引き続き高齢者施策の充実に取り組んでまいります。

○井神議長 教育部長。

○秦野教育部長 ご質問の1番目、認知症対策の3点目、認知症サポーター小中学講座の開催について、お答えいたします。

小中学校では、高齢者疑似体験、デイサービス施設への訪問、お年寄りを招いての昔の遊び体験や介護施設での職場体験など、総合的な学習の時間や生活科、中学校の職場体験において、子供たちが主体的に元気なお年寄りや介護の必要なお年寄りとの触れ合いに取り組んでいます。

小中学校とも認知症に限定した教育は行っていませんが、自分の家族に認知症の方がいる子供や、高齢化が進む中で、今後、家族の認知症と直面することになる子供も増加すると思われまます。

また、中学生に対しては、災害時には、認知症の方を含めた高齢者など災害時要援護者となる方々のサポートができるような教育や訓練も必要であると認識しております。

こういったことから、本日、ご質問いただいた趣旨を学校にも伝え、認知症に関する学習の機会を奨励してまいります。

○井神議長 市長。

○中芝市長 田畑議員の姉妹都市の提携についてのご質問にお答えをいたします。

若い世代から世界に視野を広げ、国際感覚を身につけることは、人材育成の面からしても重要なことであり、和歌山県の玄関都市としての特性を持つ岩出市としては、国際化は目指すべき方向の1つであると認識しております。

県内自治体で姉妹都市を提携しているのは、県が5件、12市町村で24件の計29件ありますが、自然や歴史などの共通項があることや、提携前から市民交流が進んでいるなど、提携に至るきっかけがあるようであります。

本市におきましては、昭和62年2月から、旧那賀郡6町の時代に、那賀郡町村会と南済州郡との姉妹交流において、農業技術の交流を深めてまいりましたが、平成17年の市町村合併を機会に脱会した経緯があります。

本市としては、将来的には姉妹都市の提携も視野に入れていくべきものであると考えておりますが、きっかけということで難しいものがありますので、当面は市民や市民団体の国際交流活動の動向を見守りながら、要望があれば支援を含めて検討してまいりたいと考えております。

2点目については、市長公室長から答弁させます。

○井神議長 市長公室長。

○湯川市長公室長 田畑議員の姉妹都市提携についての2点目にお答えいたします。

高等教育等で英語など外国語を学んだ職員は11名、ほかにも、現在、韓国語等の外国語を学んでいる職員もおりますが、会話までできる職員となりますと、厳しい状況でございます。

現在、岩出市に住民票を置く外国人は295人おまして、そのうち韓国が124人、中国が44人、あとはオーストラリア、フィリピン、アメリカ、イギリスということで、英語圏がほとんどでございます。

本年4月から11月までの8カ月間で、外国人の方が市民課などに来られたのは、述べ65人です。手続への対応等に特に問題はないことから、直ちに英会話などのできる職員を確保する必要はないと考えております。

今後、さまざまな分野での国際化に伴い、外国人の転入者や来庁者がふえることも想定できますので、外国人にわかりやすいように、課とか室などの外国語の表示、それから外国語のできる職員の確保、これについても必要に応じて検討してまいりたいと考えております。

○井神議長 再質問を許します。

田畑昭二議員。

○田畑議員 まず、1点目の認知症の件であります。ケアパスを今作成中で、その中にチェックリストも含まれておるといってお答えでございました。大事なものは、何か症状が出て相談に来られて、それから、いろいろこれから対応していくというケースは非常に多いと思いますが、そのもっとも前に、特に、私なんかもだんだ

ん高齢化になってきて、物忘れが物すごく多くなってきてるなど実感する日々なんです。そういう人が老人性の、ただ単に物忘れなのか、それか認知の症状の初期なのかというのは、なかなかわかりづらい部分がありまして、当然、自分はそんなこと絶対かからないというふうに思っている方がほとんどやと思うんですが、そういったときに、1回ちょっとチェックしてみようかなというときに、簡単にできるシステム、また方法、それが今、私が提案している認知症簡易チェッカーなんです。

だから、市が今なさっていること、これは当然いろんなことで対応していく方々に対して大事な部分で、物すごく社会資源の活用についての情報提供とか、そういうものは物すごく大事なことで、それはそれで物すごく大事なんですが、もっと前段階で、簡単にすぐに対応できるものということで、今、各市町村が全国的に物すごく広がっています。11月だけで、例えば、チェッカーを使っている方の各市町村別の数字が全部出てまして、その中で認知度の高い順に、パーセントも全部一覧表があります。だから、一目瞭然になってくるんですね。それだけ、やっぱり住民の方というのは、なかなか人に相談しにくいんですけども、やっぱり自分でちょっとやってみようかなという方は多いわけです。

そういうことで、私は導入を呼びかけているわけで、ケアパスはケアパスで十分素晴らしい機能を果たしていくとは思いますが、その前段階、もっともっと前段階で、経費も5万前後やと思います。物すごく安価でこの導入ができますので、だから、ぜひとも1回考えてもらえないかなということで質問をさせていただいております。

小中学校の件については、教育委員会のほうでおっしゃいましたように、やっぱりこれからは偏見で物を見ない。認知症というのは誰もがなる要素が高い疾患でありますから、そういう方々に対して、家族に対しても、やっぱり理解を進めていくような、そういう教育の土壌というか、そういう環境をつくっていただくのも非常に大事だと思ひまして、前向きに学校のほうにもそういう話をということで、今答弁いただきました。ぜひとも推進をしていただきたいと思います。

それと、2点目につきまして、健康寿命の方について、長い方について表彰という話なんです。確かに、答弁ありましたように、誰をどこで線引きするのかと非常に難しい部分がございます。

ただし、私が言っておるのは、健康寿命というのは1つのルールがありまして、介護保険を受けておられない自立されている方の年齢の寿命をはかったものなんで

すね。例えば、奈良県、この間、視察に行ったときも、奈良県は、今現在、19位だけれども、1位に何とか健康寿命のトップの県になるということで、さまざまな施策を今やっている最中ですよということで、いろんな視察をさせていただきました。

この健康寿命に貢献をされているという意味で、例えば、極端に言うたら、80歳以上の健康寿命に貢献されている介護保険を受けておられない方というのは、非常に健康寿命の貢献者であるという意味で、表彰をしてさしあげてもいいんじゃないかな。例えば、これちょっと例悪いんですけど、車の保険でも、保険を使わなければどんどん安くなるんですね、保険というのは。号俸も上がってきます。だけど、保険はどんどん使えば使うほど、やっぱり保険料は高くなるんですね。

同じように、介護保険、わしら、一生懸命払ってるけど、健康が一番やけど、何か損みたいなきずるなという人も中にはいらっしゃるかわかりません。やっぱりそういう方はそういう方で、非常に介護保険を使わないで、一生懸命みずからの健康管理をされて、努力されていることに対しては、やはりこれから医療費がどんどん高騰していく環境が待っているわけですから、そういう方にも貢献者として、賛嘆さしあげても損はないのかなということで、ちょっと提案をさせていただいた次第でございます。

3点目に、市長のほうも、これから岩出市というのは、非常に大事な国際都市としても発展していかなければいけない使命がある都市なんだということで、前向きにこれからもやっていこうというご答弁いただきました。

確かに、岩出市に住んでおられる若い方々が、将来、岩出というところは、こういって非常に海外ともつながっており、いろんな施策を前向きにやっていく、前進的な市であるということで、誇りに思っていたいただけるような、そういう市になれたらなということで、少し提案をさせていただいた次第でございます。

また、これからいろんな市民の方々の要望等あれば、また私も市のほうに提言をこれから続けさせていただけたらなと思っております。

以上、ちょっと取りとめない再質問になりましたけれども、所感等あればお答え願いたいと思います。

○井神議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 田畑議員の再質問にお答えいたします。

高齢化が加速化し、それに伴って認知症の方も、今後ふえていくことが十分考えられるということでございます。先ほどもご答弁申し上げましたように、今後の高

高齢者施策の中でも認知症施策というのは、非常に大切なことであるということにつきましては十分認識してございます。

その上で、今年度、認知症のケアパスを作成するというご答弁をさせていただきました。この認知症ケアパスについてなんですが、議員のおっしゃられるとおり、認知症の早期発見、対応の1つとして、誰もが簡易で認知症がチェックできる機会、先ほどの認知症のチェッカーですかね、もそうであると思いますが、必要であるため、この認知症ケアパスの中においても、市ウェブサイト等を活用して、認知症の理解と相談機関等の情報とともに、認知症のチェックリストを掲載し、高齢者やご本人、ご家族等周囲の方が確認できるように、今後検討していきたいと、このように考えてございます。

それから、引き続き議員ご提言のチェッカーについても研究はさせていただきたいと、このように思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから、健康長寿の関係でございます。議員のお考えにつきましては、高齢者の方の日ごろの健康づくりや介護予防に対するご努力に感謝し、認めることで、自身の励みとしていただき、さらに他の市民の健康意識の高揚に努め、ひいては医療費や介護給付費の削減につながるなど、市といたしましても十分理解し、共感するところでございますが、その方法論に関しては、いろいろあるかと思えます。今後、先進市などの事例も研究し、高齢者の健康増進と介護予防に向けて検討し、積極的に取り組んでまいりたいと、このように考えてございます。

○井神議長 教育部長。

○秦野教育部長 再質問にお答えいたします。

認知症の方に直接接して対応するすべ、あるいは技術、そういったことを学ぶというのではなく、認知症を初めとする高齢者への理解を深めていくことが何よりも大切であると考えます。こういった観点での教育をさらに推進してまいりたいと考えております。

○井神議長 市長公室長。

○湯川市長公室長 田畑議員の再質問にお答えいたします。

国際交流という話で、先ほど市長のほうからも答弁いたしましたように、岩出市、和歌山県の玄関都市としての特性ということで、国際化は目指すべき方向の1つということで認識をしてございます。

ただ、今回、姉妹都市の提携ということでございましたので、例を挙げさせていただきましたわけですが、自治体国際化協会というところが姉妹都市を希望する海

外の自治体の情報を公表してございます。ただ、そこで公表されている自治体、どこでもいいというわけにはいきませんので、先ほど言いましたように、きっかけというものが大事になってきます。

今後、将来的には姉妹都市の提携ということも視野に入れながら考えていきたいと思っておりますけれども、当面は市民や市民団体の国際交流活動の要望に応じていくということで考えてございます。

○井神議長 再々質問を許します。

田畑昭二議員。

○田畑議員 少し、私の健康法を皆さんにご紹介したいと思っております。というのは、認知症に対して非常に効果のある健康法ということで、実はテレビで、蛭子能収という漫画家、ご存じだと思いますけれども、あの方が、息子さんが、お父さん、おかしいと、最近。ということで、テレビの番組に出まして、2時間ぐらいの人間ドックで、頭の前から足の先まで全部調べる、そういうテレビの特番がありました。そこで調べてわかったことは、軽度の認知症であるということが発覚したんですね。

ドクターが、それに対して、予防はこれからできますよということでアドバイスしていました。1つは、運動あるそうなんです、そういう認知症の予防する運動というのが。例えば、右側は丸で、こっち側は縦とか、頭を混乱させていく運動というのはいいそうなんです。

それがまず1つと、もう1つは、その医者が言ったのは、シソ油を1日、スプーン1杯飲んでくださいと。シソ油というのはエゴマ油とも言われまして、シソ科の植物の油だそうです。これは α リノレン酸という、そういう物質が含まれておりまして、これは青魚の油と同じDHAに変換できる油なんだそうです。このDHAというのは、認知症にかかっている方の脳細胞に非常に少なくなっている症状が認知症だそうです。だから、DHAというのは、若いときは体の中で自分でつくれるんですけれども、年とってきますと、なかなか自分でつくれない。だから、外から入れてあげるとということで、シソ油を1日、スプーン1杯、2グラム、入れてあげるだけで認知症の予防になりますよということで、テレビでアドバイスしていました。

私も、1年ぐらい前やったので、ずっと続けて毎日やっています。ただ、2グラム以上飲みますと、やっぱり体によくないということで、スプーン1杯でとどめていただきたいと。それを飲み過ぎますと前立腺がんになるおそれがあるという、そういうふうにアメリカの大学が発表しているそうです。1日、本当にそれだけのことで予防ができるのであれば、簡単なことです。それがまず1つです。シソ油、エゴ

マ油、これ同じことなんです。シソ油、もしくはエゴマ油、これスーパーで売ってますんでね。

それと、もう1つは、これ新聞に載ってましたけども、キノコ氷ってご存じないですか。キノコじゃなくてエノキ氷。これ新聞に載ってまして、私も、これ1年半ぐらい前からやっています、毎日。エノキ氷というのは、エノキというのは、当然かたい。皆さん食べられたら、そのまま出てくるぐらいかたい植物繊維になりますが、あれを加工します。まず加工するのは、ミキサーにかけまして、200ccぐらいの水と1房でどろどろにします。それを約40分ぐらい煮詰めます。そして煮詰めたものを製氷機に入れて氷にします。

1食に1個、食べるようにしていきますと、何がいかといいますと、実は腸内細菌の餌になります、食物繊維は。腸内細菌というのは100兆あるそうなんです、その善玉の餌になりますので、善玉は何をつくるかといいますと、免疫細胞をつくるんです。免疫細胞というのは、皆さんご存じのように、がん細胞は白血球ではやっつけられません。NK細胞いいまして、ナチュラルキラー細胞というものでないと、我々、体の中の大体3,000から4,000ぐらい、がん細胞、毎日できているそうなんです、それをやっつけているのがNK細胞だと。それは腸内で作っているそうなんです。腸内で作っているのが、善玉で作っていくんです。その環境をつくるのが、餌になるのが食物繊維だと。

だから、キノコキトサンというのが物すごく多く含まれているのがエノキなんです、それをやっていますと、恐らく、皆さんの奥さんなんか便秘で苦しんでいらっしゃる方、20年、30年苦しんでいる方は完璧に治ります、すぐ。物すごく効果ありますから。私の家内は20年ほど苦しんでいました。それやりかけて1日2回ぐらい出ます。そのぐらい影響は物すごい。だから、腸内環境を変えるというのは、それだけ免疫細胞を多くしていくということで、免疫力つけていきますんで、特に高齢者は免疫力弱りますんで、そういうのも1つの一助になっていくということ。

そういうことで、いろいろ高齢者については、いい方法がいっぱいあるかもわかりません。そんなにも何かの機会で、また皆さんに知っていただいたらいいかなと。前にも、私、一般質問しましたけども、そういう民間療法的なものも物すごく大事なものの、いっぱいあります。だから、自分の健康管理は自分で守っていくという、そういう仕組みをつくっていけば、何も薬に頼らなくても、できるだけ自分の自力で頑張っていけるような環境づくりができるんじゃないかなと。

そういうことで、ちょっと余計な話になりましたが、これから認知症であったり

とか、高齢者の問題であったりとか、そういうこと、さまざまなところ辺も、市としても取り組んでいかなければいけないところ、たくさんありますので、我々もできる限り対応して頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

答弁は結構です。ありがとうございました。

○井神議長 以上で、田畑昭二議員の一般質問を終わります。